

アジア開発銀行(ADB)のインドにおけるベストセプテージマネジメントプロジェクトがスタート

4月末に、日本サニテーションコンソーシアム（JSC）が ABD との間、「インドにおけるベストセプテージマネジメントの導入プロジェクト（以下、本 TA）」の実施に関する支援業務の契約を締結しました。

本 TA（技術支援プロジェクト）は、インド政府が実施されているインド東北部地方開発事業の一環で、発展が遅れている東北部地方のインフラ整備の推進、特に遅れている飲料水・汚水処理分野において、インド政府が ADB からの低利息ローンを活用し事業を進めています。

JSC が今回の ADB インド TA における役割は以下のとおりです。

- 1) 経済的社会的な制約とともに既存の法体系を考慮しつつ、ターゲット地域の衛生状況、特にオンサイト処理施設について評価し、またセプテージマネジメントを推進するための戦略を検討します。
- 2) ローカルコンサルタントが実施するセプテージマネジメント関連の業務を評価し、ADB、運営機関および実施機関に必要なアドバイスをを行います。
- 3) 前記の評価の結果に基づき、ターゲット地域のセプテージマネジメント計画案の作成に協力し、セプテージマネジメントの導入に支援し、パイロットプロジェクトの実施を支援します。
- 4) ローカルコンサルタントが実施するワークショップに企画の段階から積極的に関与し、プログラムの編成やプレゼン資料の準備等に協力します。ワークショップにおいて日本のセプテージマネジメントの成功経験を紹介し、3) から得た知見に加え最適なセプテージマネジメントの提案を行います。
- 5) ADB 本部並びに ADB インド地方局、ADB 南アジア都市開発と水局とともに、本 TA で得た知見をベースにセプテージマネジメント主催者のためのガイドラインを作成します。

JSC はここ数年毎年インド現地調査を実施し、インド東北地方のオンサイト汚水処理および汚泥管理の現状を調査し、日本のオンサイト汚水処理システム（浄化槽）を紹介し、現地に適した導入可能なオンサイトシステムを提案してきました。本 TA のターゲット地域のひとつである Mizoram 州 Aizwal 市からは、浄化槽のモデル設置および浄化槽維持管理体制の構築が強く求められています。今後、そういったインド側からのオンサイト汚水処理の要望に対してどう答えていくのかは、JSC に直面する大きなチャレンジとなります。なお、本 TA の担当チームに当教育センターから調査・研究グループサブリーダー楊新泌が参加しています。



図 Aizwal 市の風景